# ひょうたんいけ

桜台小　学校だより
令和４年９月　９日
第２６号

## 令和４年度全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果報告

４月１９日(火)、全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。また、４月２７日(水)には、三重県内の小学校４，５年生において「みえスタディ・チェック」の学力調査が行われました。このほど、その結果が発表されたことを受け、本校において学力・学習状況についての結果分析等を行いました。今回はその結果分析等に基づいた本校の子どもたちの現状について紹介をします。（裏面に続きます）

## 令和４年度全国学力・学習状況調査からみられる本校児童(６年生)の特徴

【国語】全体的には、県や国の平均正答率を６～７ポイント上回る結果でした。無回答率は県や国よりもポイントが低く、子どもたちは意欲的に学力調査に取り組めたと感じます。**記述式の問題になると若干無回答率が上がり、正答率も合わせると、記述することに対して子どもたちが苦手意識のあることが読み取れます。**

（強み）「言葉の特徴や使い方に関する事項」は高い正答率でした。言葉の知識を使って文章を読み取り、登場人物の心情や作品内容を理解することはよくできていました。

（弱み）文章の構成や書き表し方に着目して、文章を整えたり、文章のよいところを見つけたりする問題の正答率が低かったです。**自分の考えを文章全体の構成を考えて表現する力が弱いと考えられます。**「書くこと」の項目では県や国の平均正答率を３～５ポイント程度下回る結果となりました。

【算数】全体的には、県や国の平均正答率と比較すると７～９ポイント上回る結果でした。無回答率は県や国よりも全体的に低く、意欲的に学力調査に取り組めたと感じます。記述式の問題については、他と比べて若干無回答率は上がりますが、正答率からも子どもたちの意欲的に取り組んだ様子が伺えます。

（強み）どの領域も県や国の平均正答率と比較すると５～９ポイント上回っており、概ね理解ができていると考えられます。また、記述式の正答率が６９．５％であり、県や国の平均正答率を９～１１ポイント上回っていました。答えの求め方や考察を説明する力が少しずつ伸びてきていると思います。

（弱み）**果汁の割合を問う設問での正答率が２２％と低く、「変化と関係」領域の「割合」について課題が見られました。**また、記述式の問題について、一定数の子どもに無回答が見られました。質問の意味が理解できていなかったり、説明することが苦手だったりする子どもへの手立てを考えていく必要があります。

【理科】全体的には、県や国の平均正答率と比較すると１０～１１ポイント上回る結果でした。無回答率も県や国と比べて格段に低く、非常に意欲的に学力調査に取り組めたと感じます。記述式の問題になると一定数の子どもに無回答が見られますが、正答率の高さからも意欲的に取り組めた様子が伺えます。

（強み）どの領域も８０％程度の正答率で、県や国の平均正答率と比較すると６～１６ポイント上回っており、概ね理解ができていると考えられます。特に**実験器具についての問題と、天気と気温の変化の問題はよくできていました。**知識を尋ねられる問題の正答率が高かったことから、学習した基礎基本の内容は身に付いていると考えられます。

（弱み）**実験や観察から得られたデータを分析して、自分の考えを持つという問題の正答率が３９％、４９％と低かったです。結果を考察することや、結果から考えられることについて、根拠を明らかにして書くことが苦手であると考えられます。**

## 学習・生活状況調査からみられる本校児童（６年生）の特徴

基本的な生活習慣（朝食をとる、起床・就寝時刻）については、意識を持って取り組めている家庭が多く、規則正しい生活が送れていると考えられます。「スマートフォンでＳＮＳや動画視聴を１時間以上する」という子どもの割合は、全国と同様５０％程度の子どもが本校にもいましたが、「１時間以上テレビゲームをする」という子どもの割合は、全国よりも１０ポイント程度低かったです。また、**「ＩＣＴ機器を勉強のために使っている」という質問では、１時間以上使っている子どもが本校では６０％を超えていましたので、学習に役立てて使っている子どもが多いと考えられます。「自分には、よいところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という問いについては、８０％以上の子どもが肯定的に答え、県や国の調査結果を５～７ポイント上回っていました。本校の子どもたちは自尊感情(自己肯定感，自己有用感ともいわれます）の高い子どもが多いことが伺えます。**また、「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしていますか」という問いについても９０％以上の子どもが肯定的に回答し、「家で自分で計画を立てて勉強しているか」の問いでは県や国の調査結果を１２

～１４ポイント上回っていました。**子どもたちの自尊感情の高さが、学習する意欲にもつながっていると考えられます。**「学校に行くのは楽しい」「友だちと協力するのは楽しい」という問いについては、９０％を超える子どもが肯定的に回答し、本校の子どもたちは、充実した学校生活を送れていることが伺えます。「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」の問いについては、１００％の子どもが肯定的に回答していました。学校生活においても、低学年にやさしく接する高学年の子どもたちの様子や、授業での学び合いの中で教え合う姿が随所に見られ、この調査結果がその裏付けとなっているように感じます。「学習は大切だと思う」「学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思う」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」という問いについては、大きく県や国の調査結果を上回っていました。**調査結果から、家庭で計画を立てて学習している子どもたちも多く、意欲的に学習に取り組んでいる姿が伺えます。**

しかしその反面、**「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」「新聞を読んでいますか」という問いについては、子どもたちの肯定的な回答が少なかったです。**「読書が好き」という回答が多かったので、書物や新聞にふれる機会を持つことで、今後の本校の教育課題改善に向けていきたいと考えています。

## 令和４年度みえスタディ・チェックからみられる本校児童（4,5年生）の特徴

【国語】

全体的に市の平均正答数と比較して、５年生は０．６ポイント、４年生は０．７ポイント下回る結果となりました。調査結果から**「記述式」の無回答率が高く、字数制限がある中で、自分の考えを文章で表現することに苦手意識のある子どもたちが多いと思われます。**子どもたちの授業後の振り返りノートの内容をみても、構成を考えて文を作ることが難しく、文量も非常に少ないように思います。どのように書けばいいのかという定型を示しながら、作文や振り返りなどを通して、指定された文字数や条件で書く練習を、これからも継続して行う必要があります。

一方で、**学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書いたり、敬体と常体の違いに注意しながら書いたりする問題では正答率が県平均を大きく上回っています。**今後も継続的に取り組んでいきたいと思います。

【算数・数学】

全体的に市の平均正答数と比較して、５年生は０．２ポイント、４年生は０．８ポイント下回る結果となりました。調査結果から、**数と計算では、正答率の差が大きく、四則演算に課題が見られました。特に小数のわり算は、子どもたちによって定着度に大きな差があることがわかりました。**「データ活用」に関しては、社会科等のデータの読み取りなどを単元ごとに実施したいと考えています。毎日の宿題や朝学習プリント等で、定期的にさまざまな問題にふれられるように取組を進めたいと思います。また、**問題形式別でみると、記述式の正答率、無回答率が高くなっています。**日々の授業において、解き方や考え方を説明する機会を増やす必要があります。

【理科】

全体的に市の平均正答率と比較して、５年生は０．４ポイント上回る結果となりました。領域別の正答率をみると、**生命領域で０．１ポイント下回っているため、日常的に身近な自然を観察したり、動植物の成長と変化について関心をもったりする学習活動を継続して指導していく必要があります。**また、正答数の分布では、正答が低い（17 問中 3～5 問）子どもたちが全体の約 24%を占めています。

## これらの調査問題の趣旨等を踏まえて（考察）

### ～ 指導の工夫と改善に関わって ～

○「書くこと」に関する力を伸ばすために、普段の授業や学級活動で繰り返し取り組ませていきたい。

**○記述する力をつけるために、問題の解き方や考え方を説明する機会を効果的に取り入れていきたい。**

○授業においては、どの子も意欲を持って主体的に参加できる授業を創造していきたい。

○現在、低中高学年別に、年間１人１回の提案授業を行い、算数科を中心とした授業実践研究を行っている。**授業の中で「めあて」と「振り返り」、「課題」と「まとめ」をしっかりと子どもたちに意識させたい。**

### ～ 学習習慣の確立と学力補充の充実に関わって ～

○家庭学習の手引きを保護者に配付し、子どもたちに自主的な学習習慣が身に付くように促す。

○自ら学ぶ習慣や、知識を活用する力をつけるために、自分でメニューを考えて行う自主学習（桜台小「プラスワン」）を継続していきたい。また、それを校内掲示することで、学習意欲を持たせる。

**○タブレット端末を毎日持ち帰り、一人ひとりに合った家庭学習に活用し、進捗状況によって助言や支援を行う。**

**○Google クラスルームを使い、タブレット端末で教材の提示や提出を行い、家庭学習の充実を図る。**

（文責　北住 昌文）